

(1) 概要

会議名	令和8年度ももこ壱番館地域連携推進会議
日時	令和8年9月14日月曜日 14:00～15:30
場所	ももこ壱番館ミーティングルーム（ももこ壱番館共用室）
出席者	【地域関係者】町内会長 K 様 【福祉に知見のある人】自立訓練事業所管理者 S 様、自立訓練事業所職員 M 様、生活訓練事業所・共同生活援事業所管理者 K 様 【利用者家族】壱番館家族 I 様（家族の代理となり得る支援者）、壱番館家族 O 様（家族の代理となり得る支援者）、参番館家族 N 様 【利用者】壱番館利用者 N さん、壱番館利用者 Y さん、参番館利用者 M さん 【事務局】管理者 T、常勤職員 A、常勤職員 H（司会者）、常勤職員 K

(2) 議事

議事内容
開始前に参加者へ、本会議では個人情報を取り扱う場合があるため、会議で知り得た個人情報を外部に漏らさないことを説明し、参加承諾書への記入をお願いした。 1. 開会の挨拶・会議についての説明 代表より開会の挨拶を行い、地域連携推進会議の目的について説明した。 本会議は、利用者、ご家族、地域の方、関係機関の方々にももこ壱番館の運営や支援について知っていただき、さまざまな立場から意見をいただくことで、より良い支援や事業所運営につなげていくことを目的としていることを共有した。 2. 参加者紹介 利用者、ご家族、相談支援事業所、生活訓練事業所、生訓 GH 事業所、町内会、ももこ職員が参加し、一人ずつ自己紹介を行った。 3. ももこ壱番館についての概要・取り組みの説明 配布資料をもとに、ももこ壱番館の理念、各棟の概要、利用者の生活、支援の考え方、地域との関わりなどについて説明した。 ももこでは、利用者自身ができることを大切にしながら、難しいことについては職員と一緒に考えていくことを基本としている。また、必要に応じて相談支援事業所、医療機関、日中活動先などの関係機関と連携しながら支援を行っている。 この一年の主な取り組みとして、以下について説明した。 ①参番館の職員配置 支援体制の充実と今後の利用者の受け入れを見据え、今年7月から参番館にも試験的に日勤職員を配置している。利用者が相談や必要な支援を受けやすい環境づくりを進めている。 ②体験利用を大切にしたい受け入れ 見学だけでは実際の生活や必要な支援について分からないことも多いため、入居前の体験利用を大切にしている。体験利用を「入居前のお試し」ではなく、本人とももこがお互いを知るための時間と位置づけている。本人には「ここで生活していけそうか」を確認してもらい、ももこでは「その方に必要な支援を提供できるか」を確認する。入居することそのものではなく、その後も安心して生活を続けていけることを大切にしていることを説明した。 4. 質問・意見交換 ①体験利用について ももこから参加者へ体験利用について意見を伺った。 利用者からは、入居前に体験利用をした方がよいとの意見があり、「1週間程度生活することでホームの様子が分かる」「食事や生活スタイルなど、実際に生活することで確認できることがある」との話があった。 家族・関係機関からは、本人に必要な支援をグループホームで提供できるかを体験利用の中で確認することは大切であり、体験後に受け入れに至らない場合についても、やむを得ない場合があるとの意見があった。 相談支援専門員からは、相談員がグループホームへ本人を紹介する背景には、その事業所に対する信頼があるとの

話があった。また、グループホームを運営し地域生活を支えていくうえでは、すべてのリスクを避けるのではなく、一定のリスクを引き受ける視点も必要であるとの意見があった。

生訓・GH 事業所からは、ももこの体験利用を大切にする考え方への賛同があった。そのうえで、事業所では体験利用は行わず、本人が支援につながろうとするタイミングを大切にしているとの方針が紹介された。

ももことしても、体験利用の必要性を改めて確認するとともに、体験利用だけを重視するのではなく、本人の状況や支援につながるタイミング、グループホームとして担う役割など、さまざまな視点から受け入れを考えていくことの大切さを学ぶ機会となった。

②地域・近隣住民との関係について

町内会長から、利用者と同一マンションに暮らす近隣住民との関係について質問があった。

ももこからは、開設当初には近隣への挨拶回りを行ったが、現在は日常的に近隣住民へ積極的に声をかけるなどの関わりは行っていないことを説明した。

町内会長からは、防災の観点からも、日頃から近隣住民と顔の見える関係をつくっておくことで、災害時などに利用者の安全を守ることにつながるのではないかと意見があった。

ももことしても、地域の中で生活していくうえで大切な視点であると受け止め、今後の地域との関係づくりについて考えていくこととした。

5. 各棟の見学

事前に利用者の許可を得たうえで、各棟の居室および共用室の見学を行った。

見学した居室では、利用者自身が見学者を迎えるために事前に室温を調整するなど準備をしていた。

参加者からは、居室の広さや、利用者がきれいに部屋を使用していることへの賞賛のほか、「実際の居室を見ることで生活の様子を知ることができた」などの感想が寄せられた。

見学終了後、参加者に感想を記入していただき、全日程を終了した。

6. 会議を終えて

参加者からは「緊張した」との感想も聞かれた一方、「定期的に顔を合わせて意見交換することの大切さを感じた」など、前向きな感想が多く寄せられた。

ももこ壱番館としては今回が 2 回目の地域連携推進会議となり、昨年度よりもスムーズに準備・進行することができた。

今回も、利用者、ご家族、地域の方、関係機関など、それぞれの立場から貴重な意見をいただくことができた。特に、体験利用や受け入れのあり方、地域との関係づくりについて、ももこだけでは気づくことのできなかった視点を得る機会となった。

今回いただいたご意見を、今後の支援や事業所運営に活かしていきたい。

参加者からの感想（一部修正して記載）

- ・緊張したが参加出来てよかった
- ・普段繋がることのない方々とお会いすることができて貴重な時間になった
- ・生活を支える業務はあらためて大変なことだと思った。
- ・援助者をまもりながら支援を行っていくことの大切さを学んだ
- ・利用者の居室が広く綺麗に使われていてよかった。
- ・昨年よりも参加者が増え、意見交換会も活発になっていてすごいと思った。

次回予定	未定
------	----